

南北統一の願いを込めて～妻と歩んだ 24 年

妻はいつも口癖のように、「日韓一体、南北統一、世界平和」と、唱える。多くの人は、たぶん夢のような話と受け止めるだろう。

しかし妻は真剣だった。そして一途に打ち込んできたことがある。それは 2001 年から韓国ソウル市の独立門の横にある独立記念館の前で、慰霊祭をつづけてきたことだ。志を共にする 70 名の婦人達と共に。振り返ってみれば、あっという間に 24 年がたっていた。

赤星善弘住職との出会いから慰霊祭開催へ

赤星善弘住職は真言宗の住職である。熊本県荒尾市で父親がお寺を開き 2 代目である。法雲山金剛寺という。九州 88 か所の 58 番札所でもある。住職は幼い頃から目の前の三池炭鉱万田坑（世界文化遺産）で中国人・朝鮮人の人たちが苦しむ姿を見て育った。戦後、亡くなられた方々の供養をと祈ったら、それはお前がやれと啓示が下りた。そこで一念発起して熊本県内を 3 年間托鉢して回った。そのお金で正法寺を立てその場に供養塔を建立した。そこから毎年慰霊祭が始まった。また毎月 8 日、数名のお坊さんが集まり祈りがささげられた。この熱心な取り組みに心打たれ、以来毎年民団や総連、華僑の方々や地元のひとが数多く参加された。その中に妻をはじめ数人の婦人たちも参加するようになった。最初は何者かといぶかっていた住職も毎月 8 日に草取りや掃除をする姿を見て心を開いてくれた。慰霊祭の時も妻たちの精誠を紹介してくれた。そして 2000 年になり、韓国の西大門に戦前独立運動をなし捕えられ犠牲になった 2835 の位牌を祭っている記念館がある事をお話したら、是非行きたいと承諾してくれた。2001 年 2 月実現し、独立記念館の前で祈りを捧げられた。「自分は祈ることしかできない。世界中の戦争で非業の死を遂げた方々の所を訪ねて祈ることが私の生涯の務めだ」とよく話しておられた。その時、韓国のお坊さんとの出会いがあり、日韓合同で慰霊祭をやろうと何の逡巡もなく決まった。2001 年 10 月 12 日が第 1 回の開催となった。

第 1 回は劇的であった。小泉純一郎総理が誕生し最初の訪問国に韓国を選んだ。そのことが報じられると反日運動が激化して日本商品の不買運動に発展した。そんな中での慰霊祭であった。ただ公園の周りがきれいに整備されたので。まるで我々の慰霊祭を国が待っていたかのようなようであった。その 3 日後に小泉総理が独立公園内の刑務所に来られ、献花された。この慰霊祭は国家と連結していることを感じた

当初慰霊祭がこんなに長く続くとは考えもしなかった。私は何度も今回でもう終わっていいのではと内心問いかけていた。4 年、8 年、10 年、12 年、21 年と。妻も私も全国の婦人たちも年を取った。今となっては体が続く限り続けることになるのかも。

冷ややかだった遺族会

始めたころは独立運動で亡くなった遺族会の方々は、とても冷たかった。遺族会館を着替えに使わせてもらうにも、何度かお願いすることによってやっと了解してくれた。日本人が突然来て何をするのかと思われたことだろう。しかし数回を経て遺族会の会報に慰霊祭のことが掲載されるようになった。精誠を尽くしていけば国境の壁、恩讐の壁も超えていけるのだと心に沁みた。

また、第3回から韓国語を学びに来た日本人留学生を毎年招待し、今まで1700名以上出席した。その中の代表一人に刑務所・歴史資料館見学の感想を慰霊祭の場で発表してもらった。日本の若者が過去の歴史を正しく知ることにより韓国の方々は大きな喜びと希望を感じておられた。

韓国の遺族会館は独立館と言い、日本の靖国神社にあたる。規模は異なるが、日本統治下での犠牲者が祭られている。西大門刑務所は網走刑務所と、うり二つに作られ、戦後も韓国政府はこの刑務所を1987年まで使っていた。今では歴史資料館となっている。

そしてついに第12回目遺族会会長が我々の慰霊祭に参加された。長年の心を込めた行事をしっかりと見てこられたのだろう。事務局長は「婦人たちが毎年会館をきれいに掃除するのを見ながら、恨が解けていくのを感じる」と言われた。ああやっとここまで来たかと、妻をはじめ婦人達一同感動で頬を濡らした。

韓国の報勲処から表彰される

2013年、韓国報勲処は佐藤みどりを表彰することを決めた。政府機関である報勲処が日本人を表彰することは今までにない。特別のことだ。

熊本でも表彰を受けたことの披露会が心ある方々が発起人となり開催された。妻は最初戸惑ったが日韓の友好に繋がることを信じて受け入れ感謝した。

23回の間多くの来賓が全国から集まった。地方の議員・宗教者・有識者などなど数百人以上になる。ほとんどの人が南大門や、東大門はよく知っているが、西大門は知らない。日本人は歴史に疎い、特に近代史は学校でも詳しく教えてくれない。その点韓国の学生は歴史に詳しい。驚くことは歴史資料館に行くと子供たちが列をなして見学に来ている。韓国の子供達がここで日本統治時代のことを学ぶ。私は、彼らが不幸な歴史を超えて、これからは未来志向で両国の友好関係を取り戻していこうと、決して反日を抱いて終わることなく、見学を締めくくってほしいと強く思う。

慰霊祭の前夜に、北朝鮮から命がけで国境を逃げて来たいいわゆる脱北者の話を聞いたことがある。本当に悲惨だ。韓国には北朝鮮から亡命した脱北者が数万名いると聞く、一日も早い南北の融和が必要だ、そして東西ドイツの様に南北の統一がなされることを願うばかりだ。今DMZ（非武装地帯）に平和公園を作り国連の管轄下におき第5国連の機関を設置する提案がなされようとしてい

る。もろ手を挙げて賛成したい。

コロナ禍での行事を経て

20年、21年、22年はコロナ禍の中で韓国・日本別々の開催となった。この継続あって、23回は今までになく感動的な行事となった。市民が700名近く集まった。学生の太鼓、坂田泰子先生の金剛山の歌、日本の来賓挨拶、そして、何よりも心を打ったのは韓国側の来賓挨拶の中で、どの人からも日本に対する恨みの言葉を聞くことはなかったことだ。

結び

この慰霊祭は西大門という一部の地域かもしれない。しかし、韓国の人たちの中から恨みが毎年の行事の積み重ねにより少しでも解けていくことは日韓の一体化の道が開けていく礎になると考えています。

妻は、「日韓の間に横たわる長い歴史をかけた恨を解くために何をしたらよいのか。愛するとは相手を理解することそのための最高の方法は結婚しかないと考えました。韓国に100回以上行く中に友人も多くできて娘の結婚も様々に紹介があり、4人とも奇跡的に韓国の方々と結ばれ、今は孫が10人今年10月に11人目が生まれます」と述懐する

孫たちには国境はない。慰霊祭の時は家族総出で手伝ってくれる。今年24回目も10月12日柳寛順烈士の命日に合わせ全国の婦人達と共に、行う予定です。将来はこの慰霊祭が日本の国家が支援する行事となり、ひいては南北統一につながることを祈ってやまない。

2024年6月24日

佐藤民雄